



● 発行所
 北海道被爆者協会
 札幌市白石区平和通
 17 丁目北 6-7
 北海道ノーモア・ヒバクシャ会館内
 TEL/FAX 011-866-9545

北海道被爆者協会 ホームページ [http:// h-nomore-hibakusha.org](http://h-nomore-hibakusha.org) メール dohidankyo@poppy.ocn.ne.jp

日本政府は核抑止論と決別し、核兵器禁止条約を批准せよ！ 総会終わる！

28 日、被爆者協会の今年度の総会が開催されました。体調不良で欠席する会員もいる中、協会と会館のこの先を見据えながら、今年度も必要なことをしっかりとやりとうと確認し合いました。参加者は委任状を含めて 40 名でした(協会・会館問題の現状については総会に先立つ理事会で報告がありました)。

そして「存在する核兵器は防衛目的のため」という G7 の「広島ビジョン」に怒りを込め、核兵器の廃絶に向けて自らの体験を語り続けるようと話し合いました。



広島ビジョン批判(総会議案より)

注目されていた広島での G7 サミットが終わった。参加国首脳は平和公園で献花し、被爆者の体験を聴くことを含め計 40 分にわたる資料館の見学を行った。彼らは何を聴き何を学んだのだろうか。

「核兵器のない世界は私のライフワーク」と言っていた岸田首相。首脳会議は 5 月 19 日に「広島ビジョン」を採択した。

冒頭、「広島及び長崎の人々が経験したかつてない壊滅と極めて甚大な非人間的な苦難」を肅然として振り返ると述べているが、当然のごとく原爆を投下した国を想起させる記述はない。

そして「核兵器はそれが存在する限りにおいて、防衛目的のために役割を果たし、侵略を抑止し、並びに戦争及び威圧を防止すべきとの認識に基づく」という奇妙な論理によって核抑止力を明確に認めた。ここでもどの国が核兵器を「存在」させているのかは不

問である。

だからであろうか、「核兵器のない世界」を「究極の目標」とし、具体的な取り組みは示されなかった。しかも核兵器禁止条約には一言も触れていない。

資料館を 40 分巡り核兵器の非人道的結末について学んだはずが、「ビジョン」には反映されていない。

メーデーに参加

5 月 1 日、中島公園「自由広場」で行われた今年のメーデー北海道集会。4 年ぶりに参加者の制限をはずして開催された「労働者の祭典」、1200 名の参加者の笑顔と声が会場にあふれました。被爆者協会からは 3 名が参加しました。



平和行進が札幌へ

5 月 7 日に札幌島を出発した平和行進が 5 月 20 日に札幌に入り、通し行進者の山口逸郎さん(92)、小林和江(82)さんが会館を訪れました。

